

2013年夏、ドイツ演奏旅行

ドイツ都市観光の栞

仙台宗教音楽合唱団 Bass 山岸 健一

旅程表をみると、観光の時間なんてほとんどとれないとは思いますが、せっかくのドイツ旅行なので最低限のものは見ておきたいですね。

ドイツの都市は、高層ビルが立ち並ぶヨーロッパの金融の中心フランクフルトですら、その中心に中世の面影を残す広場があります。たいていの都市は市庁舎前や中心となる教会の前に広場があります。Marktplatz（マルクト広場）などと名付けられていれば、そこで市（market）が開かれていたわけです。クリスマスマーケットで有名な町もありますよね。

ドイツに限らずヨーロッパの都市は昔は城壁で囲まれていました。それは中国も同じで、漢字で「城」は都市のことです。ドイツ語の Burg も「城」の意味ですが、同時に「城壁で囲まれた都市」でもあります。

中世、すなわちドイツでは「神聖ローマ帝国」の時代に、商工業者たちが集まって都市を形成し、周囲の領主貴族から街の自治を守るために、皇帝から「自治都市」の特許状をもらって城壁を築いたのです。

市の政治は、同業者組合（ギルド、手工業者の場合は特にツンフトという）の「親方 Meister」たちが中心となって運営していました。ヴァーグナーの楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」に描かれた世界です。ですから都市の市民 Bürger がフランス語になるとブルジョワ（資本家階級）になるわけです。近代の市民革命（ブルジョワジー革命）は都市の自治のやり方を国家の政治のやり方にしようという革命だったわけですね。

今度の旅行では、ローテンブルク、ライプツィヒ、リューベックに宿泊しロストックで歌います。

ローテンブルクは、南ドイツの「ロマンティック街道」沿いの都市の中でも特に有名な所です。昔の城壁が完全に残っています。（第二次大戦の空襲で破壊された所も元のままに復元されています。）

ライプツィヒは、ザクセン州（旧ザクセン選帝侯国・王国）の州都ドレスデンが領主の政治都市なのに対し、市民の町、文化の町です。城壁は残っていませんが、地図で見ると、ここが城壁の跡だとわかる道路が「何某リング」と名付けられています。（ヴィーンも城壁の跡をリンクシュトラッセという環状道路にしています。）

リューベックは、中世に北ドイツ諸都市の都市同盟「ハンザ同盟」の盟主として君臨していた都市です。そのハンザ同盟は、1259年にリューベックとロストック（およびその間の都市ヴィスマル）との間で結ばれた「通商の安全確保のための協定」に始まる、と日経 BP「ドイツの田舎町ーヨーロッパ史の舞台を歩く」には記されています。（Wikipedia には、それより前リューベックとハンブルクが1241年に商業同盟を結んだ、という記事があるが..）

この他、ローテンブルクからライプツィヒへの移動途中に、ニュルンベルクとバイロイトに立ち寄ります。

ニュルンベルクも、旧市街地を囲む城壁がほぼ完全に残っています。立ち寄るニュルンベルク・ソーセージの店が、フラウエン教会前の中央市場のあたりだといいですね。

バイロイトは、どちらかというとバイロイト辺境伯という領主の城下町という性格の町のように思われます。ヴァーグナーが自分の作品だけを上演するために始めたバイロイト音楽祭の祝祭大劇場、およびヴァーグナーの墓があるヴァーンフリート荘を見る時間があるでしょうか？

ライプツィヒからリューベックへの移動中による首都ベルリンも、プロイセン国王にしてドイツ皇帝のお膝元です。旧市街地は有名なブランデンブルク門より東側、すなわち旧東ベルリン地区です。ただ我々はおそらく市の西側から市内に入るでしょうから、そちらのほうまでは行けないでしょう。

※以下、写真はリューベック・ロストック以外は、2011年GWに山岸が撮影したもの。

ローテンブルク（ローテンブルク・オブ・デア・タウバー：Rothenburg ob der Tauber）

ホーエンシュタウフェン家の神聖ローマ皇帝コンラート3世（1138-52）が、1142年に現在のブルク公園のところに帝国城塞を築いた。ここはタウバー川が蛇行して西に突き出た河岸段丘上であり、城を築くのに適した地形であった。皇帝がローテンブルクで政務をとったのはこのコンラート3世だけである。しかしその周囲に都市が形成され、1170年に「ローテンブルク市」が設置された。1274年にハプスブルク家の皇帝ルドルフ1世によって「帝国自由都市」の特許が与えられた。この13世紀頃から街は城塞化していった。

古い都市は、現在の郷土博物館（もとドミニコ修道尼院）、ヴァイサー塔、マルクス塔、中世犯罪博物館を結ぶラインだったと思われる。（マルクス塔の南西にのびる道が「Alter Stadtgraben」すなわち「昔の町の堀」と名付けられている。）しかしその後、市域が拡大し、クリンゲン門、ガルゲン門、レーダー門、シュピタール門、コボルツェラー門という5つの門とその間を結ぶ城壁が形成された。

市の中心、市庁舎はゴシック様式とルネサンス様式の二つの部分からなる。西の市庁舎、北の市参事会員酒場に囲まれたところがマルクト広場である。ここでは毎正時になると参事会員酒場の仕掛け時計が、三十年戦争の時の「マイスタートルク」の逸話を演じてくれる。（時計の左にティリー将軍、右でワインを一気飲みするヌッシュ元市長が登場する。）

※. マイスタートルク

ローテンブルクは宗教改革の際にルター派に改宗していた。カトリック対プロテスタントの宗教戦争である三十年戦争（1618-48）の際、町はカトリック軍の将軍ティリーに占領された（1631）。

この時、ティリーは市参事会員の誰かが3.25リットルの大杯でワインを一気飲みできたら略奪は容赦してやると言ったところ、元市長のヌッシュがそれを成し遂げ町を救った、という話。

市庁舎の北にある「聖ヤコブ教会」は1311年に建設が開始され1485年に献堂式が行われた。（一昨年の演奏旅行が実現していれば建設開始700周年記念演奏会の一環として歌えたはずなのである。）この教会には名彫刻家ティルマン・リーメンシュナイダー（1460頃～1531）の代表作「聖血の祭壇」が2階オルガン席の裏側にある。必見。

一方、我々が演奏する「フランツィスカーナー教会」は、もとフランシスコ会修道院附属教会で、1285年に初期ゴシック様式で建造されたこの町最古の教会である。ここにもリーメンシュナイダー作の「聖フランシスコ祭壇」がある。

今回、一般の方々が宿泊するホテル・ラッペン（Zum Rappen）は、ガルゲン門のすぐ外側にある。朝の散歩は、ガルゲン門から城壁に登ってしばらく歩いてみる、というのがお勧め。（左廻りにシュランネン広場まで5～10分ぐらい。街並み越しに聖ヤコブ教会がよく見える。）

一方、学生さんたちが泊まるユース（ユージェントヘアベルゲ）は旧市街地の南のほうにある。

ということは、**当市最高の名所「プレーンライン」**に近い！ここでは、地図中の赤い矢印の方向にむかって写真を撮る、というのがお決まりなのだが、日中は案外人出が多く、なかなか落ち着いた絵にならない。朝の散歩でならば良い感じで撮影できるだろう。（南向きの撮影になるから日中は逆光になるし。）

また市の南端、シュピタール門は要塞になっていて、5つある門の中でも特に素晴らしい。要塞の中には大砲も据えられていて、中世自治都市がそのまま「城」であることがよくわかる。（これに対し、北端のクリンゲン門は聖ヴォルフガング教会と一体化し、教会がそのまま要塞の役割も果たしているのも面白い。）

この町は、プレーンラインに限らず町全体が中世そのまま、という感じなので、どこを見ても絵になる。是非時間の許す限り出歩いて見て欲しい。

さらに時間があれば、コボルツェラー門から出てタウバー川にかかる二重橋のあたりまで下りて行き、二重橋越しに市街地を見上げる、という構図でも写真撮影していただきたい。



ガルゲン門



聖ヤコブ教会



聖ヤコブ教会内「聖血の祭壇」



市庁舎前広場

(左が市庁舎、右が市参事会員酒場、間に聖ヤコブ教会の塔)



演奏会場のフランツィスカーナ教会



名所「プレーンライン」

(左がジーバース塔、右奥がコボルツェラー門)



二重橋越しに市街地を見上げる

(コボルツェラー門から 10 分ぐらいで行ける)



ライプツィヒ (Leipzig)

1165 年には都市権・市場権を獲得し自治都市となった。この頃に始まる 9 月の定期市 **Leipziger Messe** は全ヨーロッパの大歳市となった。なおライプツィヒ・メッセが「商品見本市」になったのは 19 世紀末のことである。

1409 年にはライプツィヒ大学が創立された。現在のドイツではハイデルベルク大学につぐ 2 番目に古い大学である。卒業生にはゲーテ、ライプニッツ、現ドイツ首相メルケルなどがおり、朝永振一郎も留学していた。

宗教改革の際には、ルターとカトリックの神学者エックとの論争の地にもなった。

音楽面では、バッハが晩年を過ごした聖トマス教会、メンデルスゾーン・シューマンにゆかりのゲヴァントハウス管弦楽団、またヴァーグナー生誕地としても有名である。また世界初の音楽出版社ブライトコプフやペーターズもこの町に始まる。メンデルスゾーンが設立したライプツィヒ音楽院（現メンデルスゾーン音楽演劇大学）には滝廉太郎や齊藤秀雄が留学している。

フランス革命に続くナポレオン戦争においては、1813 年に市の郊外における諸国民戦争でのナポレオン敗北の地としても歴史に名を残している。（ちょうど 200 年前、この年にヴァーグナーが生まれた。）

さて、旧市街地を東から順に見所を紹介する。

まずアウグストゥス広場を中心に、北にライプツィヒ歌劇場、南にコンサートホール「**ゲヴァントハウス**」がある。ゲヴァントハウス管弦楽団は 1743 年設立の世界初の市民階級による自主運営オーケストラである。ゲヴァントハウスとは「織物商館」のことで、1781 年に織物商館だった建物に演奏会場を移したことから、その名がある。歴代楽長にはメンデルスゾーン、ニキシュ、フルトヴェングラー、ワルターなどの往年の名指揮者たちが名を連ねている。

なお、ゲヴァントハウスの東南に旧市街の外へ少し行くと「**メンデルスゾーン・ハウス**」がある。彼が最後に過ごした場所で、仕事部屋は当時のままである。現在はライプツィヒ大学音楽学部が管理している。

ゲヴァントハウスのすぐ脇にはライプツィヒ大学の真新しい校舎がある（2011 年完成）。

その南西にそびえる **City-Hochhaus** は、ヨーロッパでは珍しい高さ 142.5 メートルの超高層ビル。これも元はライプツィヒ大学の校舎として 1972 年に建設されたので「本を開いた形」をしている。ドイツ統一後に売却・改修され商業ビルとなった。**MDR**＝中部ドイツ放送局（旧ライプツィヒ放送局）のロゴが入っている。

歌劇場から少し西へ行くと**ニコライ教会**がある。ここは 1989 年には自由化運動の中心地となった。10月9日に当時のゲヴァントハウス楽長クルト・マズアらが声明を読み上げ、7 万人の大規模デモに発展し、それがちょうど 1 月後の「ベルリンの壁崩壊」へとつながっていったのである。

さらに西へ行くと**旧証券取引所**の建物があり、その前にゲーテ像がある。

その南に、大通りから南に入るアーケード街「**メドラー・パッサージュ**」がある。パッサージュは他にもあるが、どれもビルの中央にアーチ状の入口が開いている。日本のアーケード街はビルとビルの間の道路に屋根がついているだけだが、こちらのパッサージュは違う。アーケード街全体が建物なのである。

「メドラー・パッサージュ」を歩いていくと、ゲーテがよく食事していたという「**アウアーバッハスケラー**」がある。ランチがお勧め。肉料理についてくるサラダも結構量がある。店内にはゲーテの「ファウスト」の名場面が壁画に描かれている。

旧証券取引所のすぐ西が「**旧市庁舎**」、その西がマルクト広場で市が立ち並んでいる。

市庁舎からさらに西へ行くと我々が演奏する**聖トマス教会**が見えてくる。堂内正面祭壇にはバッハの遺体が埋葬されている。ただしそれは 1949 年に改葬されたのであって、死後すぐにここに葬られたわけではない。教会の南側には、バッハと親しかったボーゼ家の屋敷を改装した「**バッハ博物館**」がある。

ウェスティン・ホテルは旧市街地の北、ユースは北東にある。ホテルとユースの間に、**ライプツィヒ中央駅**（**Hauptbahnhof**）がある。この駅は底面積がヨーロッパ最大の駅である。日本の駅はどれも通過駅タイプの駅舎ばかりだが、「本当のターミナル（＝終着駅）とはこういうものなんだ」とわからせてくれる。切符を買わなくてもホームの手前まで行けるので、鉄道がお好きな方はどうぞ。



ゲヴァントハウス



メンデルスゾーン・ハウス



ニコライ教会



メドラー・パッサージュとその入口



アウアーバッハスケラー



旧証券取引所



旧市庁舎



聖トマス教会



正面祭壇とバッハの墓



奥の二階オルガン席の前で歌う



リューベック (Lübeck)

地図で見ると、トラヴェ川（西）とトラヴェ運河（東）とに囲まれた楕円系の中洲が旧市街地で、その全体が世界遺産に登録されている。

1143 年、ホルシュタイン伯アドルフが初めてここに都市を築いたが、1156 年の大火で灰燼に帰した。その後、神聖ローマ皇帝フリードリヒ 1 世（赤髭王、位 1155-90）と対立していた、ザクセン公・バイエルン公を兼任するハインリヒ獅子公が都市を再建し、岩塩を輸出資源として独占して、バルト海・北海の貿易の中心となった。このように、領主貴族による「建設都市」としてその歴史は幕を開けた。

しかし、1180 年にハインリヒ獅子公が皇帝フリードリヒ 1 世からすべての領地を剥奪され両者の対立に決着がつくと、1188 年にリューベックは皇帝から自治の特許を与えられた。その後 1201 年から 20 年余りの間、周辺一帯とともにデンマーク王の支配を受けたが、1123 年に解放戦が起こるとリューベック市民も自らの経費と意志によって戦争に参加し独立を勝ち取った。皇帝フリードリヒ 2 世は、勇敢なるリューベック市民の熱望にこたえ、1226 年に「帝国自由都市」の特許状を与えた。その後まもなく、前述のようにハンブルクとの同盟、ロストック・ヴィスマルとの通商同盟を皮切りに、北ドイツを中心とし北海・バルト海にまたがる「ハンザ同盟」を結成し、その盟主として 15 世紀まで君臨した。同盟はその後、近代に入り衰退したが、「自由ハンザ都市」として、リューベック・ハンブルク・ブレーメン 3 都市は、1871 年に統一されたドイツ帝国においても、22 君主国と並んで連邦制国家の一員であり続け、1919 年からのドイツ共和国（ヴァイマル共和国）時代もその地位を維持した。しかし、第 2 次大戦後のドイツ連邦共和国（西ドイツ）時代になると、ハンブルク・ブレーメンがいずれも 1 都市で州となっているのに対し、リューベックのみはシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州に組み込まれてしまった（州都ですらない）。

見所は、我々が宿泊する Park-Inn Radisson ホテルの目の前にある**ホルステン門**である。15 世紀の建造。自らの重みで傾いている。門の南に続くのは塩の貯蔵庫である。

門を入りトラヴェ川を渡ってそのままホルステン通りを東に進むと、まず右手（南）に**聖ペトリ教会**、ついで左手に**マルクト広場**となる。広場を囲む建物のうち北と東に L 字状に建つのが**市庁舎**である。広場のさらに北に**マリエン教会**がある。学生さんがとまるユースはマリエン教会の西にあるようだ。

聖ペトリ教会は、塔にエレベーターで登れる（9:00-21:00、3 ユーロ）。その展望写真を載せているブログから写真を無断借用した。なお、ホルステン門の西から見た時、右に見える塔 1 本の教会が聖ペトリ教会、左に見える塔 2 本の教会がマリエン教会である。

市庁舎の建造開始は 1226 年、ゴシック様式。のち 16 世紀にルネサンス様式で増築された。（この経緯はローテンブルク市庁舎も全く同じだ。渡辺さんの下見記事に、市庁舎に酒場が併設された逸話が紹介されていたが、ローテンブルクも市庁舎脇に市参事会員酒場がある。）

マリエン教会は 13 世紀建造のゴシック様式。塔の高さ 125m。ドイツではウルム大聖堂 161m、ケルン大聖堂 157m に次いで 3 番目に高い。8512 本のパイプを持つパイプオルガンがあり、1705 年には音楽家ブクステフデの奏でるオルガンを聴くためにバッハが訪れたことでも有名。また、第二次世界大戦の爆撃で尖塔から落下した 2 つの鐘がそのままの姿で留め置かれている。（J.E.ガーディナーがこの教会で北ドイツ放送交響楽団他を指揮したブリテン「戦争レクイエム」の DVD がある。）

マリエン教会の北には**トーマス・マン兄弟記念館**（ブッデンプロックハウス）、さらに北には**聖霊養護院**（Heiligen-Geist Hospital）、北端には**ブルク門**など。

また市の南端には「**大聖堂**」。この大聖堂も塔が 2 本で、デザインとしてはマリエン教会とそっくりなのがまぎらわしい。（ここでギュンター・ヴァント指揮北ドイツ放送交響楽団がライヴ録音したブルックナーの交響曲第 8 番・第 9 番の CD が出ている。）





ホルステン門を西から
門の左の2本塔がマリエン教会
右の1本塔が聖ペトリ教会、その手前は塩の貯蔵庫。

聖ペトリ教会からホルステン門と塩の貯蔵庫（左）



聖ペトリ教会から見たマリエン教会、
右下が市庁舎とマルクト広場

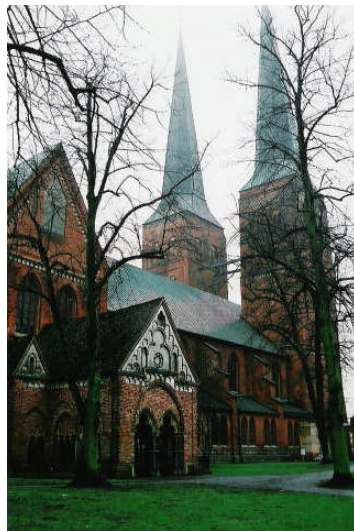


マルクト広場内から市庁舎



聖ペトリ教会から見た大聖堂

大聖堂近影



聖霊養護院



ブルク門



マン兄弟記念館
(ブッデンブローックハウス)

ロストック (Rostok)

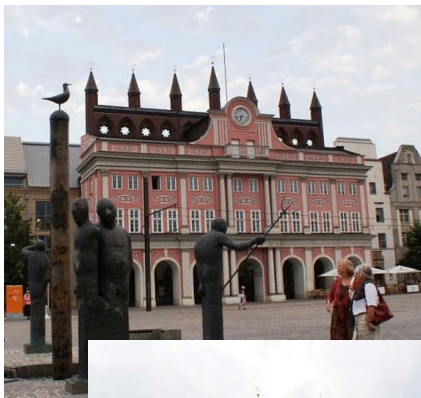
1218 年頃に成立し、ハンザ同盟の主要都市として発展した。1419 年に設立されたロストック大学は、現存するドイツの大学ではハイデルベルク、ライプツィヒについて3 番目に古い。戦後は東ドイツ領だった。



市庁舎とその脇のマリエン教会（下）

シュタイン門

演奏会場のニコライ教会



聖ペトリ教会と城壁



ニュルンベルク (Nürnberg)

城壁に囲まれた旧市街地は北が高くなっている。北端にカイザーブルク（皇帝の城）がある。1050 年に神聖ローマ皇帝ハインリヒ 3 世が築いた城塞である。その後、ニュルンベルク城伯の支配下にあったが、1219 年に帝国自由都市となった。多くの皇帝がこの町を居館に選び、帝国議会の開催地にもなった。

ルネサンス時代には、画家デューラー（カイザーブルクの少し西に家が残っている）や、ヴァーグナーの楽劇の主人公となったマイスタージンガーのハンス・ザックスが活躍した。楽劇第3幕で歌われるザックス作詞の合唱「目覚めよ！」は宗教改革を歌った歌である。1525 年に市がルター派となったことで皇帝との関係は薄れた。

現代史においては、ナチス党大会開催地であり、1935 年党大会ではユダヤ人から市民権を剥奪する「ニュルンベルク法」が制定された場所でもあったということも忘れてはならない。（当然ながら広大な党大会会場は旧市街の外にあった。）

市の中心ハウプトマルクト広場は、「美しの泉 Schöner Brunnen」やフラウエン教会などに囲まれており、クリスマス・マーケットが有名である。

美しの泉（左後ろの塔は聖ゼバルドゥス教会）



ハウプトマルクト広場とフラウエン教会



バイロイト (Bayreuth)

13 世紀初頭に都市権が与えられたが、16 ～ 17 世紀になって辺境伯の城下町になった。1744-48 年にバロック様式の美しい辺境伯歌劇場が宮殿の隣に建設された。ヴァーグナーは初め辺境伯歌劇場を自らの楽劇の演奏場所にしようと考えてこの地を訪れたが、狭すぎたために断念し、新たに祝祭大劇場を建設したのである。

バイロイト祝祭大劇場



ヴァーグナーの館ヴァーンフリート荘



その裏手の
ヴァーグナーの墓

